



自立に向けた新たな取り組み

羽幌町長 舟橋 泰博

新年あけましておめでとございませう。平成17年の輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

町民の皆様には、平素より町行政に対する格別なるご支援、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、依然として雇用や景気など回復する気配がなく、加えて少子高齢化や過疎化の進行などもあり厳しい社会情勢でありましたが、島民待望の天売小中学校完成やグールプホーム等介護サービス事業者の参入、新道立羽幌病院、中心市街地TMOショッピングセンターの工事着工など将来に向け期待をいたすものも数多くありました。

反面、自然の猛威を思い知らされた年でもあり、9月の台風18号による災害では、観測史上最大の瞬間風速46・9mを記録し、住民の財産をはじめ多方面に被害を及ぼすなど、わが町ではかつて経験のない出来事となりました。年末には、留萌支庁南部を震源とする地震が発生し、町内では過去最大の震度5弱を記録し、商工業関係での被害が多く見られましたが、幸いにも生命に係わる事態とはならず安堵してい

るものの、まさに災害の年であったと痛感し、日頃の備えが非常に重要なものとあらためて認識しております。

本町の基幹産業である農林漁業のうち農業では、基幹作目の水稲が夏場から好天に恵まれたため生育も順調に進み、一部に台風等による減収も懸念されましたが、前年に比べ収量は大幅に増え一等米の比率は98%と、羽幌産米は平年並みの出来秋となりました。新年も実り多い年であることを願っております。

漁業では、昨年1月に広域の「北るもい漁協」が羽幌町を本所として誕生して初年度となりましたが、漁協全体、羽幌町内共に水揚げ計画の達成を見ることができ、大変喜ばしいものであります。しかしながら前年実績には及ばず、そのうえ魚価安を始め、台風、高温といった環境要因の影響を受け、漁業種類によっては大変厳しい状況にもあることから、これらの事態に憂慮しております。

観光面では、天候不順等の影響もあり、前年対比で約93%の入り込みになりましたが、離島観光資源や本町では初となりました連続TVドラマ「女医・優〜青空クリニック」などの口

ケ・全国放映効果で、その知名度は確実にアップしており、各種イベントや、12月にリニョールオープンした本町の観光拠点でもあります「サンセットプラザはぼろ」とともに、今後を期待をいたすものであります。

一方、町村合併問題については、昨年3月から苦前町・初山別村と3町村で合併に関する協議を進めてまいりましたが、現状では本町単独で地域の発展をめざすことが適切であると判断し、11月末で合併協議会を解散いたしました。今後は、自立に向けた新たな取り組みを模索していくこととなり、これまでの貴重な合併協議を今後のまちづくりに反映させていく所存であります。

本年も、課題が多岐にわたり山積し、幾多の困難も予想されますが、直面する諸課題に積極的に取り組み、常に初心を忘れることなく、町民皆様の目線に立ち、「心と心のふれあうまちづくり」を進めるためにも、皆様と力を合わせながら汗を流し、知恵を出し合い努力していく所存でありますので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご繁栄を心からお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。



スタートした自立の道

羽幌町議会議長 森 淳

新年あけましておめでとつございます。輝かしい新年を皆様と迎えることができ、すことを心からお喜び申し上げます。

町民の皆様には、日頃から町政に対するご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、日本経済にかすかな回復の兆しがありましたものの、地方の不況依然厳しい低迷に加え、相次ぐ台風や地震による被害が追い討ちをかけるなど多難な国内情勢でありました。

世界情勢では、混迷が続くイラク情勢から自衛隊の継続派遣が決まり、また、卑劣なテロ行為は止まることなくスペインやロシアなど、各地で多くの人命が失われました。

一方、地球温暖化防止の京都議定書が7年ぶりに発効の見通しであることや、37個のメダルに沸いたアテネ五輪、大リーグの安打記録を達成したイチロー選手の快挙など明るいニュースがありました。

このような情勢下にあつて、本町では天売小中学校校舎の完成や朝日団地の公営住宅建設、公共下水道管渠延長整備率75%の敷設工事完

了など計画的な基盤整備が順調に終了いたしました。

また、改築中の道立羽幌病院躯体がほぼ完成し、本年7月の開院に向け着々と工事が進捗しておりますことは喜ばしい限りであります。施設の充実とともに、小児科医常駐の実現に期待しているところであります。

サンセットプラザ温泉ホテルは、町有財産の有効利用と経営改善を目指し公営経営から民間委託経営に切替、昨年暮れより営業中であります。

産業面では、台風の影響が心配された主要作物の水稲は、作況指数97%を下回りましたが、まずまずの成果でありました。

50年振りのニシン群来が話題となった水産業は、年間漁獲計画達成が目前であります。

商業では、「(株)ハートタウンはぼろ」によるショッピングセンターが、本年いよいよ完成の年で、中心街の拠点施設として集客による相乗効果など地域の活性化に期待しております。

さて、国が進める三位一体改革に伴い、小規模市町村が、共通する行政課題と合併後の新町を想定した協議を進めて参りましたが、本来の

合併論議にそれぞれ隔たりが大きいことから重要案件の繰り延べが多く、住民説明や申請手続きなど日程上時間切れと判断し、協議会廃止と本町単独自立の道を選択したところであります。

今後は、行政サイドで策定した羽幌町自立シユミレーションを指針として、健全な行財政運営監視と施策決定に努めて参りたいと存じます。

地方分権化の一方では、補助金や地方交付税の縮減と税源委譲するバランス確保など依然課題が残り、地方自治体の経営はかつてない厳しい環境にありますことから、徹底した行政経費の削減や保健・介護・医療・福祉面にも単独事業の見直しなど少子高齢化社会に適応した施策の展開が求められます。

議会といたしまして、こうした厳しい状況にありましても行政との連携を密に、町民皆様の生活安定と福祉向上を担う責任の重大さを認識し、信頼に心える努力をいたす所存であります。どうか一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。益々のご健勝と辛多き年でありますよう心からお祈りいたしました。新年のご挨拶と致します。